

過去の広瀬霞



自然豊かな湿地環境

かつての広瀬霞は湿地的環境にあり、周辺は樹林に覆われていました。

このような広瀬霞は、水泳など子供たちのよい遊び場もありました。

多様な動植物が生息・生育

樹林や湿地には多種多様な動植物が生息・生育していました。

瀬切れ環境を補う ネットワークの接続点

昔から広瀬霞より上流では、瀬切れが発生しており、動植物が生息するうえで厳しい環境にありました。ただし、この区間の河川周辺には自然豊かな多くの「泉」が存在し、これらの泉は水路を介してネットワーク(生態的なネットワーク)を形成していました。このネットワークと本川を繋ぐ接続点として、広瀬霞は重要な役割を果たしていました。このような本川⇄泉というネットワーク機能により、瀬切れによる厳しい自然環境を補っていました。

整備前の広瀬霞



失われた湿地環境

現在、霞堤内は盛土によって湿地環境が喪失し、ノイバラやセイタカアワダチソウなどの外来植物が繁茂しています。また、水質の悪化、ゴミの増加等により、かつての自然豊かな面影は見られません。

動植物の減少

湿地環境の喪失により、多くの貴重な動植物の生息・生育環境が悪化し、その数は激減しています。

ネットワーク機能の悪化

昔に比べ瀬切れの期間・範囲が長くなり、魚類の生息環境等において、重信川の中でも特に劣悪な環境にあります。これに加え、かつては本川と泉を繋ぐネットワークの接続点として機能していた広瀬霞も湿地環境の喪失により、その機能を果たせない状況となっています。

広瀬霞の整備方針

失われた湿地環境の再生と治水機能の保全

広瀬霞、河畔林を再生し、かつて見られた自然豊かな湿地環境を確保します。ここでは、霞とその周辺に生息する動植物を観察する等、総合学習の場としても有効に活用できます。

また、霞堤内の開発を抑制することにより治水機能を保全します。

減少した動植物の再生

広瀬霞、河畔林を再生し、現在は絶滅寸前の動植物を再生します。

悪化したネットワーク機能の再生

魚類等の移動空間の拡大や濁水期における避難場所を確保します。

堤内の泉や水路に生息する動植物の生息環境を改善します。